

## ジャンプ傘の取り扱いに要注意！

そろそろ梅雨入りの時期、使い方によっては傘が破損することも。商品テストの結果をご紹介します。

独立行政法人国民生活センターは、全国の消費生活センターによせられる相談解決のため、子ども用のジャンプ傘の商品テストを行いました。

### 相談事例

子ども用のジャンプ傘を開こうとボタンを押したところ、「バン」と音を立てて中棒が手元近くで破損した。原因を調べてほしい。

### テストの方法と結果

相談事例の傘と同型品（以下、当該品）と、参考品（当該品と同じ長さの子ども用傘）を用いて次の2通りの動作を行い、中棒を破損させ、破損状態を調べました。  
①傘を閉じた状態で、傘を折り曲げる動作

②傘を開いた状態で、取っ手を持って回転し、素早く反転する動作（イラスト参照）



開いた傘を回転し素早く反転させる様子

テストの結果、②の動作を繰り返す行くと、相談事例に類似した破損状態が確認されました。

②の動作によって、傘のボタン付近に過負荷が加わったことが、破損の原因と考えられます。複数の参考品でも同様の状態が確認されたことから、当該品の強度が特に弱かったということではありませんでした。

### 消費者へのアドバイス

傘についた雨水を飛ばそうとして、②の動作を行うと傘が破損する原因になりますので注意しましょう。子どもには保護者から注意するようにしましょう。

★消費生活センター業務時間  
時間・場所  
月～金 8時30分～17時  
(来所は9時～16時)  
本庁舎1階 消費生活相談室  
相談専用電話 ☎ 574-2233



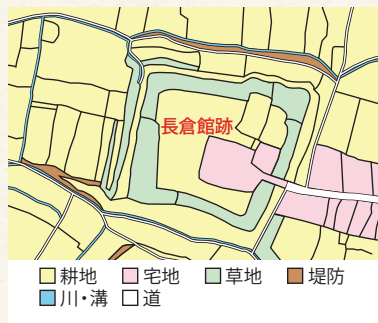
## 地域の魅力 ふる里再発見

### 遺跡が語る中世の伊達①

第2回 室町時代、岐路に立つ伊達氏（一）

幕府を京都・鎌倉のどちらに置くか、足利尊氏は、悩んだといわれています。その後、京都に幕府を設置すると、武家政権より築かれた都市鎌倉には、鎌倉府が設置されました。しかし、この決定は、足利一門とそれぞれの派閥間の政争を引き起こしていくこととなります。この中、將軍足利義満は、明徳二年（1391年）に奥羽（東北の地）を鎌倉府の直轄下に置くことを決定します。この決定により、奥羽の国人たちも否応なく、幕府内部の政争に巻き込まれていくこととなるのでした。この経過の中、伊達政宗（9代当主）は、反鎌倉の態度を示し鎌倉から凶徒と呼ばれていきます。

明徳二年の決定を受けると、応永六年（1399年）、鎌倉公方、足利氏満は、自身の兄弟である満貞・満直を稲村（須賀川市・篠川（郡山市）に派遣します。稲村に本拠を置いた足利満貞は、応永七年（1400年）に伊達政宗と蘆名満盛の討伐を結城満朝に命じます。また、この時、上野（現在の群馬県）から岩松氏が政宗討伐のため出陣したことを『余目氏旧記』は伝え、伊達方は、長倉要害にてこ



の岩松氏を迎え撃つたと伝えられています。

『余目氏旧記』に記された長倉要害は、伊達小学校周辺にある長倉館跡と考えられています。明治に作成された地籍図から見てみると長倉館跡は、一辺130m程度の方形の館跡で館の周囲には、堀と土塁が巡らされていたと考えられます。また、『余目氏旧記』によれば、この長倉館跡は、伊達氏の一族である長倉入道なる人物が、拠点としていたと記されています。

現在、この長倉館跡周辺は開発が進み、往時の面影を見ることは難しくなっていますが、明治に作成された地籍図や伊達小学校の北東に土塁の一部とみられる高まりから、当時の様子うかがい知ることができます。